

平成27年度 第6回 利用者懇談会 議事録

文責：大野

日 時：平成27年11月7日（土） 13：30～15：00

場 所：喜多方市立図書館2階 第2閲覧室

出席者：公募6名（小学生～一般）、文化課1名、図書館2名

配布資料：①『図書館だより（わくわくとしょかんメール、ききみみずきん）
平成27年度発行（春・夏・秋号）各1部』

②『喜多方市立図書館利用案内』

③『蔵書構成・雑誌新聞保存について（平成26年度喜多方市立図書館年報より抜粋）』

④『平成27年度 催し物のポスターおよび報告』

⑤『平成27年度 広報活動および読書推進事業実施計画』

⑥『平成26年度 図書館アンケートへのご意見（抜粋）』

1. 開会

2. 主催者挨拶（館長）

3. 図書館担当課挨拶（教育委員会文化課・補佐）

4. 議事

(1) 図書館の現状報告（利用状況など）

(2) ディスカッション

<テーマ>

① 図書館の蔵書について（参考：平成26年度図書館年報より）

② 図書館の催し物について

・今年度の催し物報告

③ 図書館だよりの内容について（ご意見）

・ききみみずきん（一般用）

・わくわくとしょかんメール（児童用）

④ 催し物の広報手段について（ご意見）

⑤ 意見交換（ご意見・ご要望等）

配布資料①「図書館だより（わくわくとしょかんメール、ききみみずきん）平成27年度発行（春・夏・秋号）各1部」～⑥「平成26年度 図書館アンケートへのご意見（抜粋）」の内容を図書館から説明した後、意見交換を行う。

それに先立ち⑥「平成26年度 図書館アンケートへのご意見（抜粋）」の資料のご意見について、文化課より説明を行う。

図書館 トイレの改修について、利用者アンケートでも毎回ご意見をいただいております。今回、改修について公表できる状態になりましたので、文化課さんからお話していただきます。

文化課 今年度、1階の男性用、女性用トイレの改修を行います。全てのトイレを改修することは難しいので、今回は1階のトイレだけ改修を行うこととなりました。

利用者A 年を取った人もいるので、すべて和式だと大変だ。

文化課 男性用・女性用すべて和式から洋式にする予定です。

～全体的なことに対する意見交換～

利用者A 塩川など、旧市外の地域にも図書館はあるのか。

文化課 図書館はありませんが、公民館の中に公民館図書室があります。公民館図書室は、喜多方市立図書館のようにTRC（図書館流通センター）が運営しているのではなく、公民館が直接運営しておりますが、一部事業において図書館と連携を図っております。

利用者A 公民館での本の貸出などはどうしているのか。

文化課 それぞれの公民館の職員が行っております。

利用者A 貸出の手続きなどを電算化してもらえるといい。塩川総合支所の庁舎が新しくなると聞いた。

文化課 塩川総合支所の庁舎が新しくなるということで、そこに図書室や図書を利用できるスペースを設けて欲しいという意見はあるようです。まだ、具体的な計画が決まっていないので、これから市民の方の意見も参考にしながら検討していく

こことなります。

利用者B 雑誌の要望として、『プレジデント Family (ファミリー)』『日経プラスワン』という小中学生をお持ちの家庭向けの雑誌があるので、図書館に入れて欲しい。『ESSE』や『Saita』のような内容が似たようなものが多いので、検討していただきたい。

図書館 利用者の方からの雑誌に対する要望は大変多いのですが、予算の枠が限られているため、どなたでも対象になるものを置いています。雑誌については、すぐに変更することが難しいため、他の図書館の蔵書状況を見ながら検討しています。今回の雑誌の変更につきましては、休刊する雑誌があったことによるものですが、今回いただきましたご意見など、今後の参考とさせていただきます。

利用者B 喜多方市立図書館では、「家読(うちどく)」についてどのような取り組みを行っているのか。

図書館 図書館では、家庭での読書に関する相談もお受けしておりますが、お子さんが本を読むかどうかについては、お家の雰囲気や環境によると思いますので、図書館では「家読(うちどく)」に関して特別な取り組みは行っておりません。しかし、ブックスタートや毎週行っている「おはなし会」といった、本に親しむ「きっかけ」をつくる取り組みは行っております。

利用者C 私が小学生の頃は厚生会館の中に小さな図書室があり、学校帰りに本を借りることができた。しかし、今の子ども達は自分たちだけで学区外に出るはいけないなどと言われていることもあり、保護者と一緒でなければ図書館に来ることができない子どももいる。そのため、子ども達だけで図書館を利用しづらい環境なのではないか。図書館の出張所や定期的な移動図書館などがあるのとないのとでは違うのではないかと思う。

図書館 例えば、いわき市の図書館では移動図書館車を持っているため、学校などを巡回しており、移動図書館の利用だけでなく、図書館から団体貸出された本の受け取りも行っています。本市図書館においても限られた予算や人員の中で、何かよい方法を考えていきたいと思えます。

利用者B 目の前に第二小学校があるが、児童の利用率はどうか。

図書館 二小の児童に限らず、小学生の利用は多いです。平日も近所に住んでいるお子さんが来館することもあります。お家の人と一緒に来館することができる土曜日、日曜日の利用が多いです。

～広報紙「わくわくとしょかんメール」について～

利用者B 小学生や中学生でも自分とは何かと考えることがある。『14歳の君へ』のような、悩んでいるときに心が折れないような本の紹介をしてもらえるとよい。

利用者C 課題図書などは自分たちに近いものを選ぶので、興味がある部分は読むが、自分の年齢と違うものには、目が向きにくいところがあると思う。

図書館 小学生といっても1年生から6年生では、年齢や知識量にも差がでてくると思いますので、広報誌等で紹介する本を選ぶ際には、その辺を配慮していきたいと思います。

～その他～

利用者D ホームページを使ってイベント情報等を広報しても、インターネットを利用できる人は限られてくる。図書館は子どもからお年寄りまで利用するので、図書館の敷居を下げないと大人も子どもも図書館に親しまない。

また、付き合う仲間が本を読んで、本の内容などが会話の話題となれば、話題についていこうと本を読む。それが本を読むきっかけにつながるのではないか。図書館を利用する人とそうでない人のギャップを認識すれば、もっと図書館はよくなると思う。

4. 閉会